

子宮頸がんワクチンめぐり 被害者、接種中止訴え

子宮頸がんワクチンの副作用をめぐり、厚生労働省の検討会が16日、接種を一時中止しない方針を決めたことについて、被害者の父母らで作る「全国子宮頸がんワクチン被害者連絡会」の松藤美香代表が会見し、「時間がかかるほど被害者は増える。一時中止してほしかった」と述べた。

厚生労働省は、調査・審議するワクチン製造販売業者から寄付金などを受け取った委員に申告を求めており、

検討会の冒頭で委員の実名が公表された。松藤代表は「業者からお金をもらってワクチンの是非を言えるのか。副作用の問題はお金をもらっていない方に審査してほしい」と批判した。

一方、検討会は同日、医療機関などから報告された重い副作用のうち「未回復」「その後どうなったか不明」などのケースを調査することを決めた。連絡会が独自に提出した24人の健康被害も調べるといふ。